



令和4年3月1日現在

世帯数	6,275戸
人口	15,477人
男	7,500人
女	7,977人

10区 コロナ禍の三九郎無事開催



新型コロナウイルス ウイルス感染拡大が続くなか、10区ではPTAや区の役員で検討、昨年中止となった三九郎をギリギリまで状況判断し、1月8日に何とか地区行事として開催することができました。

子どもたちも楽しみにしていたようで、大勢の参加がありました。私は役員として、組み立てから片づけまで参加させていただきました。地区の子どもの年齢も年々少なくなってきたためか、自分の子ども時代と比較すると、作製準備の木の切り出しや組み立ては安全面から大人がある程度組上げますが、門松集めと飾り付け、片づけ、御神木の希望者へのお届けなど、昔は子どもたちだけでできていた活動が難しくなってきたと思います。

また現在は飾り付けを片づける際、材質の分別が必要になったのと、御神木が売りに回っていた頃に比べ、薪を使う家が少なくなった事による需要の変化により、数年前から希望者のみのお宅へ後日お届けするなど、時代の変化を感じております。

例年であれば、翌日のお昼に慰労会として子どもたちがカレーを作り食べていましたが、今年はコロナ感染症防止対策として飲食は自粛したため、少し寂しい思いをしたと思われまます。

また、昨今では、三九郎のできる田んぼが宅地造成により限られ、減少してきています。今回行われた場所も、私たちが子どもだった頃から2回ほど変更されているようです。昭和通りから7区の方へ少し入った田んぼをお借りしておりますが、地区内で田んぼが減少したことで、場所の確保が難しくなっています。

郡道坂と私の青春

波田を離れて、早くも五年が経ちます。大学のキャンパスが長野市になり、引越すことになった時は嬉しく感じましたことを覚えております。波田は市街地から離れており、遊びに行くにも必要な物を買いたいにも、時間と費用を要



無病息災を願いながら...

保が難しくなってきたのか、なかなか思いがけないのか、今年、三九郎が区の伝統行事として続いているのか心配です。他地区においても開催が難しくなっているという噂も聞きました。昔は開催していた地区も、コロナ感染症や場所と子どもの減少でできなくなってきたようです。

早くコロナが落ち着き、伝統行事として来年度も開催できるといいですね。早くコロナが落ち着き、伝統行事として来年度も開催できるといいですね。早くコロナが落ち着き、伝統行事として来年度も開催できるといいですね。

することに不便を感じていたからです。引越先が長野市の中心部になったこともあり、「生活が楽しくなる、便利になる」と思っていました。しかし、離れることで懐かしさを感じられることもあり、私にとっては、それは郡道坂でした。波田小の前から始まる、あのちよつと急な坂道。私の家は上波田にありました。9年間、郡道坂を歩きました。雨や雪が降っても、強い風が吹いても、友だちと話しながら、時には重い部活動の道具を背負いながら歩いたこともありました。真夏の部活動が終わる頃、夕焼けを空に感じながら仲間と帰宅したことも覚えております。あまり意識したことはありませんでした。私の青春は郡道坂と共にあったようです。私がこんな楽しい登下校ができたことには、友人に恵まれたということがあります。積極的に声をかけられない私を誘ってくれた友人がいました。そして、そんな友人と帰れるように支えてくれたのは、当時通っていた学校という存在でした。小学校に入学したときは、同じ方向で帰る子どもたちを集め、一緒に先生が途中



いつの時代も子どもたちを見守る郡道坂

まで帰ってくれました。一緒に会話に混ざりながら、話を広げ、仲良くなるきっかけをつくってくださいました。中学校に入学してからは、同じクラス、同じ部活動に登下校を共にする仲間がいました。一緒に勉強し、汗を流し、苦労を乗り越えてきたことで仲を深めることができました。私は、自身が楽しく登下校できたのは巡り合わせだと思っていました。しかし、よく考えてみると、実は学校という存在が支えてくれたと思われまます。そんな私は、大学を卒業してから中学校の教員となりました。毎日、生徒の元気な姿を見ながら、仕事に奮闘しています。今は日々をこなすだけで精一杯ですが、子どもが笑顔で登下校できるような場所づくりを、一教員としてやっていきたいと思います。

人生100年時代の 地域の取り組み

—波田くらしの
— ささえあい情報を発刊—

近年、医療の高度化などの影響を受け、人生100年時代と呼ばれるようになりまし
た。日本はますます高齢社会
が進行するなか、波田地区に
おいてもその流れは例外では
ありません。この先も高齢者
が住みよい地域としていくた
めには、生活支援サービスと
高齢者自身が社会参加をし、
地域の人々との交流をするこ
とが必要不可欠です。

波田地区は、現在元気なお
年寄りが松本市の中でも多い
といわれておりますが、積極
的に社会参加をすることが将
来の認知症や介護予防につな
がります。しかし、生活支援
サービスの内容や、地域での
活動内容をご存知でない方が
多いのではないのでしょうか。
行政でも実際にどのようなニ
ーズがあるのかを掴みきれ
ていない実情もあります。
そこで今回、波田まちづく
り協議会では、「波田くらしの
ささえあい情報」を4月頃に
発行することになりました。
内容としては、食事や電球交
換など生活している中での困

波田から見える山々

コロナウイルスの感染拡大
が始まってから、もう二年以
上が過ぎました。密を避け、
なるべく人と関わらず、不



公民館主催の健康講座「遊YOU大学」

りごとから、地
域サロンでの
交流やカフェ
など幅広く紹
介されていて、
多くの皆様に
関心を持って
いただける内
容となっております。
ります。

担当された生活支援員の申
條さんは、「ご家族、ご近所
で解決できない困りごとを
なく選択肢があることによっ
て、ご自身の思いや気持ち
を尊重し、その
時々の状態に
あったサービ
スを利用して
ほしい」との
思いを語られ
ていました。



発行される冊子

社会的な問題に対し、地域
として取り組むためにも本誌
を活用しながら住民同士協力
し、より住み良い波田地区に
していきましよう。

急不外出はしないことと
言われ続け、公民館の講座や
サークルも中止や延期が続
き、すっかり巣ごもり生活に
なってしまったという方も多
いかと思います。

そんな中、気晴らしになっ
て運動不足を多少解消して
くれることも期待して、散歩に
出かけてみませんか。波田に
はウォーキングコースもあり
ますし、適度な坂や林もあり
ます。何より見晴らしのよい
場所があつて、天気の良い日
には遠くの山まで見渡せます。

安曇野から見える山といえ
ば北アルプスですが、残念な
がら波田からはあまりよくは
見えません。ただ新村から波
田に向かって国道を進むと正
面に乗鞍岳の頂が見え、安曇
野市の方に目をやると、爺ヶ
岳や鹿島槍の美しい山々が見
られます。ふり返れば美ヶ原
や鉢伏山や高ボッチ山などが
きれいに見えます。恋人の丘
からは、松本平とともにそれ
らの山々が見渡せてよい眺め
です。

散歩を楽しむ内に、南や北
に見える山のことも気になっ
てきました。そこで、「山の名
前の分かるアプリ」をスマホ
に入れて出かけてみました。
恋人の丘から坂を上って21

区まで行く
と、塩尻峠の
方に大きな山
並が見える場
所がありました
た。八ヶ岳で
した。山形村
まで行かなく
てもこんなにきれいに見える
ことに感動しました。



八ヶ岳

恋人の丘か
ら下って下原
では、南の低
い山の上に陰
しい頂の山が
見えました。
これは、南アル
プスの仙丈ヶ
岳、北岳、甲斐駒ヶ岳でした。
南信出身の私には懐かしい山
が、波田から見えたことに驚
きました。



南アルプス

そこから北
側を見ると、
白馬と谷を挟
んで反対側に
遠く山々が見
えました。ア
プリによれば
戸隠山、妙高
山など北信の山でした。そんな
遠くまで見渡せる景色のよい場
所が波田なのです。まだまだ
知らない山がありそうで、これ
からも楽しみたいと思います。



北信の山

私も先輩と同じ山村地域
で生まれ育ち、昔と変わら
ぬ自然の風景やそこに住む
人に会いたくて、故郷を離
れた今でもできる限りの地
域活動をしています。
人口減少、少子高齢化な
ど課題は多いですが、住民
一人一人が元気に農業など
に従事している姿はとても
刺激を受け、昔ながらのそ
の手法や知恵を次世代に引
き継ぐことが、この地で生
きてきた人の証を残すこと
だと感じています。



「地域を興す
ことは、そこで
生きてる証を残す
ことだ。」

これは、私の尊敬する人生
の先輩が教えてくれた言葉で
す。この言葉のとおり、山村
地域で暮らす先輩は、地区の
役員を歴任するなかで課題を
洗い出し、住民と語り合うな
かで愛すべき故郷の自然や
人、暮らしを守ろうと会社を
つくりました。この会社は、
地域運営法人として農産物
の生産や販売、直売施設や
キャンプ場の運営を行って
おり、まさに経済力や人々の
意欲を向上させるなど、地域
興しにつながっていると感じ
ています。